

認定重症心身障害看護師からの声

NO 3

重症心身障害児者とのコミュニケーションは、簡単ではありません。そのため、訴えやその人にあったニーズもわかりにくいです。しかし経験を積み、重症心身障害児者のひとりひとりを知ろうと関わり、良く観察していく中で少しずつ理解できたときは、大きな喜びを感じます。重症心身障害児者のいちばん近くでその人の障害にあった日常生活援助や看護ケアを提供し、相手が喜び、笑顔になってくれることの素晴らしさ、可能性を信じ、機能の向上に取り組み、成果が見えたときの喜びは、重症心身障害児者と関わる看護師の醍醐味であると思います。今後も日常生活全般の向上に努め、少しでも重症心身障害児者の健康や機能の維持向上につながるよう努力したいと思っています。



平成23年度認定（第1回） 枚方総合発達医療センター 奥井 智子

私にとっての重心看護とは、「心の声に寄り添い、思いを満たす」ことにあります。研修会に参加して、根拠ある重心看護に留まらず、重症心身障害児の施設が抱える問題や在宅で生活している重症児やその家族の現状についても学びを深めることが出来ました。また、看護研究では普段何気なく行っている私たちの関わり方も、振り返り・評価・考察して残していくことの大切さも学びました。これからも、病棟で行っている取り組み1つ1つを評価し、改善し続けるようにしていきたいです。そして施設の病棟で働く重症心身看護師として、スタッフにも学びの共有を行い、利用者の声に寄り添い、充実した日々が過ごせるように努力しています。



平成24年度認定（第2回） 枚方総合発達医療センター 藤林 奈緒